

ぎんれいゆ会

平成二十九年十月

パソコンの立上げ待つや小鳥くる

主幸 細野恵久 福祉三期

海越しに見ゆ二上山秋高し

改正節夫 国際三期

彼岸花墓園行きバス客一人

藤井秀重 生環四期

月白に米研ぐ妹を呼びにけり

三枝邦光 美工五期

秋澄めり地図に浮き出る遠山河

國永靖子 音文六期

不揃いの囃子の稽古大根時く

猿橋二三雄 福祉八期

生き急ぐ闇夜の虫の恋戦さ

加藤善巳 美工八期

秋没日ふと六方の真似てみる

太田 實 国際十期

信楽の狸もともに今年酒

今崎良平 音文十四期

満月や庭の草花活けひとり

大下絹子 国際十五期

荒庭の萱の刃に斬られけり

中村建生 国際十五期

京にありあため酒と湯葉御膳

藤本武子 国際十五期

登高や開港百と五十年

山下 進 国際十五期

兄よりの栗地方紙に包まれて

許斐國照 食文十五期

連綿と続けし稲架を組む農夫

小淵政子 健福十六期

渋柿のてぶ」の言の葉表せず

水島麗子 国際十六期

絵はがきの亡夫の一文字十三夜

兼清久子 健福十七期

声尖る人前列に敬老会

宮本公子 健福十七期

戦史ある手帳の束の寒露かな

沖本无辺子 国際十七期

仕舞風呂歌消ゆるほど虫時雨

香春早苗 国際十七期

捨案山子宿の導となりけり

仲田愼輔 国際十七期

風白き九月の夕べ人有す

中村富美子 国際十七期

北斎の波間跳ぶ月兎

宮本眞貴子 国際十七期

鳳仙花一つ弾けてつきつきと

江間れい子 園芸十七期

曼珠沙華寂し寂しと群れてをり

小栗恭子 健福十八期

稲穂波バイク五六騎駆け抜ける

潮江敏弘 健福十八期

母植えし狭庭の樹々に秋小鳥

野見山剛 健福十八期

敬老日昔あそびに集まる子

大山吉春 国際十八期

波長合う人と暮らして稲の花

今井義和 美工二十期

石塀に響くこつぱり夕月夜

尾崎育久 美工二十一期

送られし家郷の新米薫りけり

黒木早苗 食文二十一期

眼帯を解かれ広がる里の秋

宮脇暁美 食文二十一期

第二百四十二回ぎんれい句会（十月十三日開催）より